

学生大使 実施報告書

氏名：東海林凌

学部・学科（コース）・学年：工学部 情報・エレクトロニクス学科情報・知能コース

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：2024年9月4日(水)～2024年9月17日(火)

1 日本語教室での活動内容

私は、ベトナム国家農業大学の意欲的に日本語を学習している「日向クラブ」という団体と協力し、日本語教室を行いました。派遣期間中、大型の台風がベトナム上陸した影響により、当初の予定よりも回数は減りましたが、複数回授業を行うことができました。日本語教室に参加してくださった生徒の方々は、日向クラブを中心としたベトナム国家農業大学の学生や社会人、小学生などの多様な人たちでした。また、日本語の習熟度もひらがなを読み書きするので精一杯の人から、日常会話をスムーズに行うことができる人など幅広くおり、授業での柔軟な対応が求められました。

私は自身と同様に学生大使プログラムで参加していた山形大学の生徒とグループ分けを行い、基本1名から3名の生徒を対象に授業を行いました。日本語教室に参加する生徒は学習意欲が高く、授業の開始時に「挨拶について学習したい」や「趣味の内容について話せるようになりたい」など目標を掲示されることが多々ありました。私は事前に準備していた教材を使いながら、生徒が望む学習を意識しながら授業を行うことを心がけました。また授業中に質問を多く行い、生徒に日本語を多く使って話してもらうことも意識して行いました。そうすることで、双方が日本とベトナムの文化の違いについての理解を深めることができ、日本語学習以外の楽しさも得ることができました。

今回の日本語教室を通して、台風による授業回数の制限は留学生、現地生徒の両者にとって辛いものでした。しかし少ない回数ながらも両者の満足のいく授業が行えたと感じます。そのため、日本語教室の生徒の多くが授業時間外に交流を求めて私達、学生大使のもとを訪れてくださいました。最終日には別れを惜しむ言葉をかけてくださり、充実した日本教室になったと感じました。

2 日本語教室以外での交流活動

私を含めた学生大使プログラムでベトナム派遣された学生は、2週間「日向クラブ」のメンバーと行動をともにしました。日向クラブの方々は私達とコミュニケーションを取ることを楽しんでくださり、私の行きたい場所、買いたいものを伝えると喜んで案内してくださいました。また、空いた時間には観光地や飲食店に誘ってくださり、ベトナム観光も充実して行えました。三食の時間や遠くの観光地に行く際は、学生大使全員と日向クラブのメンバー複数人という大所帯で行動することが多く、多くの現地民と同時に関わる機会も多々ありました。また、派遣期間中に台風が上陸しホテル待機になった際には、自身の部屋まで訪ねてくださり、深い会話も楽しむこともできました。

【学生大使 実施報告書】

私にとって、今回のベトナム派遣では、日本語教室以外の活動時間がとても印象的なものでした。日向クラブの方々に連れて行ってもらったハノイの街並み、匂い、食文化、感じるもの全てに日本との差異を感じ驚愕することばかりでした。特に座学でベトナムについて学習して感じることに実際に体験して感じることは大きく異なると感じました。特に食べ物の味や町中の匂い、衛生面に関する嫌悪感は実際に体験して感じられるものだと思います。私にとってベトナム派遣はとても濃い2週間でした。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私は出発前に積極的に行動すること、自身の未知に触れて価値観を広げることを2つを目標に学生大使プログラムに参加しました。

1つ目の目標、積極性に行動することに関しては達成できたと感じます。このプログラムは当初私がイメージしていた内容と異なり、かなり自由度が高く、現地民との距離感が近いものでした。そのため自身の要望や意見を出しやすく、受け入れてもらえました。具体的には、見たことのない食材を購入して食べたり、ベトナムのお化け屋敷やビリヤードを体験させてもらったりしました。

2つ目の目標、価値観を広げることにに関して達成できたかは、正直、帰国直後の現在では実感がありません。学生大使プログラムに参加したことで、積極的に未知に関わり、得がたい体験をし、多くの知見を得たと感じます。中には自身にとって強く衝撃を与えた物や常識を覆すものが多くありました。私は、これからの人生でこの経験が生きたときに価値観が広がったと感じるのだと思います。一方で今回の多岐にわたる衝撃的な体験は、将来の大きな選択の動機付けに繋がるとも感じます。そのため、私が将来このプログラムが価値観を広げたとと言えることを確信しています。

4 プログラムに参加した感想

このプログラムを通して、言語や価値観による大きな壁と国境のない人の優しさの2つを同時に感じました。想定していたとおり、自身の話す日本語が24時間、理解してもらえない環境と向き合うことは大きな負荷を感じました。また大きな内容の伝達だけでなく、お手洗いにいく、ティッシュを貰うなどといった些細なことを伝えるにも言語の壁があることは、日本での他言語交流とは異なる負荷を感じました。さらに日常の全てが異なる文化になることに対して、苦痛に感じる場面も多々ありました。一方で、日向クラブの方々や町中のベトナム人の優しさや気遣いに触れることもできました。具体的には、自身が不意に出してしまった表情や行動を見て、臨機応変な対応をすることや現地民同士の相手を思いやるマナーが日本の気遣いと近いものであると思いました。このことからプログラムを通して、文化や価値観が違ってても人の心のようなものは変わらないと感じました。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

私は今回の学生大使プログラム、ベトナム派遣を通して得た知識や経験を今後の生活や選択に活かしていきたいと考えます。またこれからの大学生活、人生で多くの未知に飛び込ん

【学生大使 実施報告書】

でいきたいと思います。今回の2週間の派遣によって最も強く出た感情は、辛いという感情よりも大差で「楽しさ」という感情でした。この経験から未知と関わる際に得られるものは、マイナスの感情よりも楽しい、面白いといったプラスの感情が多いと思います。そのため、これからも未知に挑戦し、やらない後悔よりもやって後悔、そして多くのことを楽しむ、といった精神で取り組んでいきたいと思います。また未知の経験をするには、海外が特に適していると思います。そのため、また海外に行き、多くの未知を経験し多くの感情を得たいと思います。

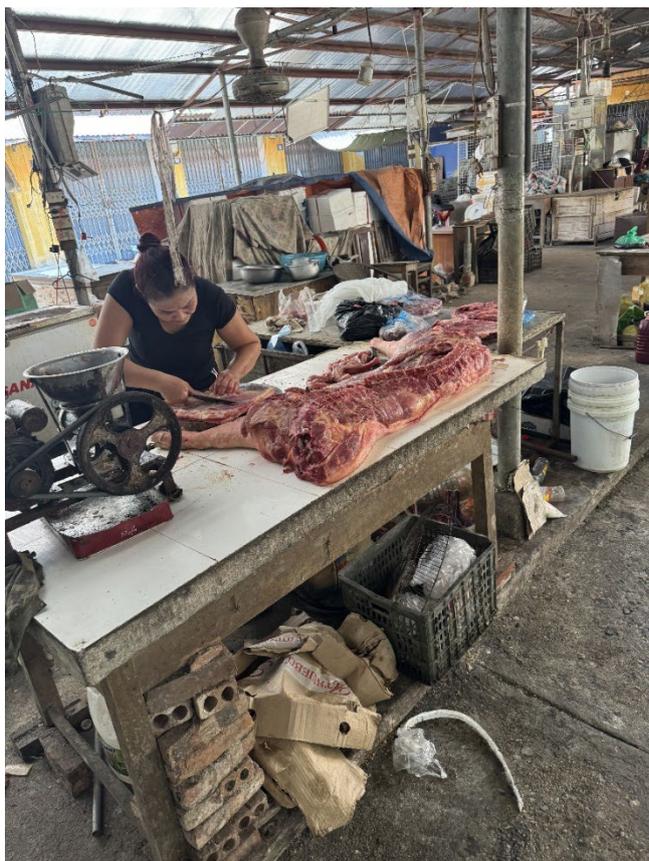


アオザイを着て観光中の様子



授業の様子

【学生大使 実施報告書】



市場の様子



道路の様子